

発達障害児者地域生活支援モデル事業プロジェクトチーム

取組期間：令和2年7月～3年3月

報告書記載者・代表：札幌市保健福祉局障がい保健福祉部 神田 至絵

事業委託：社会福祉法人はるにれの里

令和3年度の重点取組

- ・発達障がいを背景とするひきこもりケースに対し、コーディネーターを中心としたチーム支援の実施、ラポール形成のためのアイデア集の作成、家族支援プログラムの作成・実施、これらの効果検証と各機関への情報提供により、当事者への支援体制強化が進むことを目的とする。

活動概要

- ・年3回、発達障害児者地域生活支援モデル事業企画・推進委員会を開催
 - 事業運営についての検討・報告、事例検討
- ・年2回、地域包括支援センターや相談支援事業所等を主な対象とした研修会の実施
 - 発達障がいについての講話、事業報告を通して支援手法や関係機関の連携のあり方について、情報提供。
- ・コーディネーターを中心としたモデルケースへのチーム支援（9月～継続中）
- ・ラポール形成のためのアイデア集作成（3月完成予定）
- ・ファミリープログラムの実施（9月～11月実施）

抽出された課題

- ・コーディネーターが中心となる支援は有効だが、コーディネーターになりうる人材は現状では十分ではない。
- ・高齢・障がいなど、分野が変わると、ケース支援のスピード感、動き方が違うことを機関間が双方に理解した上で、役割分担等を検討していく必要がある。

課題解決に向けた次年度の取組予定

- ・ひきこもりケースは発達障がいに関わる問題ではないため、他領域をまたいだ支援体制を構築する必要がある。チーム支援は有効だが、現状ではコーディネーターを担える人材が十分ではないため、この手法をどのように拡大できるのかの検討が引き続き必要。
- ・ファミリープログラムの継続に向けての内容の検証や他機関での実施の支援。

